

鈴鹿ベイロータリークラブ

例会日 木曜日 18:30～19:30
例会場 鈴鹿サーキットホテル
事務局 〒510-0295 鈴鹿市稲生町7992
鈴鹿サーキットホテル
TEL 059(379)2484 FAX 059(379)2770



Rotary

Be the
Inspiration

インスピレーションになろう



新春祈禱祝詞

掛けまくも畏き彌都加伎神社の大前に
に恐み恐みも白さく 日に異に大神
等の高き尊き大神威を仰ぎ奉り尊び
奉りて広く世界の人々の相互理解を
求め平和と自由を願ひ更に地域の社
会の生活・文化・福祉の増進等を目的
(みちしるべ)として奉仕の輪を拡げ
その活動に励み続けしあるなか鈴鹿
ベイロータリークラブにありては新
玉の歳月返る今日の吉日を選び定め
て会長平野泰治を始め会員打揃い例
代(いやじろ)の帛幣(みてぐら)を
捧げ奉りて拝み奉る状(さま)を平け
く安けく聞き食し給ひて今由行先大
神等の奇く妙なる神智霊能を蒙(た
が)らしめ給ひて此乃クラブの内外の
八十禍つ日(やそまがつひ)の枉事(ま
がごと)無く又事執り持つ本年度の
役員達は身も心も健かに夫々の任務
は直く正しく緩む事無く勤しみ励み
ゆくりなくも過ち犯せんことの有ら
んおぼ 神直比(かななおび) 大直比
(おおなおび)に見直し聞き直しまし
て夫々の勤めは緩む事無く勤しみ励
まし給へと恐み恐みも白す。

平成三十一年

鈴鹿ベイロータリークラブ

第1317回 例会報告 (2019年1月10日)

新年例会

クラブ奉仕部門

■司会 / 川岸憲博 SAA ■ロータリーソング / 君が代、奉仕の理想

■お客様 / 農業食堂「わがや」店主 森田 英治 様

■会長挨拶 / 平野泰治 会長

皆様 おめでとうございます。平成最後のお正月を皆様は如何おすごしでしたでしょうか。
皆様と鈴鹿ベイロータリークラブにとりまして、より良き年になりますよう祈念申し上げ
ます。本年もロータリーライフを楽しんでいただけるようお願いいたします。

■出席報告

例会日	会員数	出席者	欠席者	出席率
1月10日	12名	10名	2名	83.3%

2週間前の補正後出席率 12名中 11名 91.67%

■ニコボックス

・遠藤会員より多額のご寄付を頂戴いたしました。

■例会 / 新年例会 / クラブ奉仕部門 担当

2019年、第1回目の例会が今年も彌都加伎神社で行われました。例会の前には恒例
の参拝を行い、遠藤宮司に鈴鹿ベイロータリークラブの平和と発展を願う祈禱祝詞を奉
納していただきました。参拝の後には社務所広間にて会員相互の親睦を深めました。



ロータリーの礎は「つながり」です。若い弁護士としてシカゴにやって来たポール・ハリスがロータリーを創設した最大の理由、それは見知らぬ街でほかの人たちと「つながる」ことでした。それから1世紀以上が経った今、私たちの周りには、ポール・ハリスの時代には想像もできなかったような友情とネットワークを築くための方法が数多く存在します。それでも、ロータリーにおける「つながり」は独特であり、ほかに類を見ません。

国際ロータリーには、地域社会とつながり、職業のネットワークを広げ、強くて永い関係構築ができる確固とした使命と構造があります。会員による数多くのプロジェクトやプログラム、ポリオ撲滅活動におけるロータリーのリーダーシップ、国連との協力などを通じ、私たちはグローバルコミュニティとつながっています。私たちの奉仕活動は、同じ価値観を共有し、より良い世界のために行動したいと願う人びとの結びつきをもたらします。また、ロータリーがなければ出会うことがなかった人びと、共通の考えを持った人びと、私たちの支援を必要とする人びととつながり、世界中の地域社会で人生を変えるような活動を行うことを可能にしています。

21世紀の新たな10年の始まりに、私たちはロータリーの未来を形作っています。2019-2020年度、ロータリーは新しい戦略計画を実行に移し、規定審議会が採択した革新性に応え、より活性化された重点分野において活動します。しかし、ロータリーの未来を形作る本当の場所はクラブです。刻々と変化する現実に対応するために、ロータリーはクラブに注力していかなければなりません。クラブはロータリーでの経験の中心部ですが、今ではクラブのあり方をより創造的かつ柔軟性をもって決めることができます。これには例会の方法や、何をもって例会とするかを検討することも含まれます。会員増強のアプローチにおいては、組織立った戦略的・革新的な方策が必要です。そうすることで、地域社会とのより広く、深いつながりができるだけでなく、より多様な会員に魅力を感じてもらい、積極的な参加を促すことができるでしょう。

実際のところ、ロータリーは家族です。そうであるにも関わらず、会員組織の構造やリーダーシップの要求などがあることで、今日の若い職業人にとってはロータリーが手の届きにくい存在となっているようです。ロータリーは、家族との時間を犠牲にするのではなく、家族との時間を補うような経験を提供する場である必要があります。クラブが温かく、みんなを受け入れるような雰囲気があれば、家族と奉仕活動は両立でき、家族志向の若い職業人にロータリー奉仕や市民としての参加の機会を提供できます。また、ロータリーの役職に対する期待事項を、多忙な職業人にあわせて現実的かつ管理可能なものとするすることで、将来ロータリーのリーダーとなる次世代のロータリアンのスキルを高め、ネットワークを築くことができるでしょう。

2019-2020年度には、「ロータリーは世界をつなぐ」のテーマの下、ロータリーの奉仕を通じて、有能で思慮深く、寛大な人びとが手を取り合い、行動を起こすためのつながりを築いてまいりましょう。